

## 17 世紀パリにおける篤信家ネットワークの編成

坂野 正則・山本妙子

山本妙子と坂野正則（共に東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）は、17 世紀パリにおける「篤信家」*dévots* と呼ばれる有力カトリック聖職者と信徒に関する社会史的研究を共同研究として進めてきた。その成果は、「17 世紀パリにおける篤信家ネットワークの編成—聖体会と貴顕信心会を中心に—」（『クリオ』21 号（2007 年）、67—84 頁）として公表しているが、今回はその共同研究の一部を報告させていただいた。報告の構成としては、坂野が冒頭の序論で問題の所在を明らかにした後で、山本が「パリ篤信家の宗教結社の組織・理念・活動—聖体会と貴顕信心会の会規の比較分析より」と題する個別報告を行い、引き続き坂野が「パリ篤信家の人的構成」と題する個別報告を行った。なお、今回の研究報告のコメンテーターは、東京大学大学院総合文化研究科准教授の長谷川まゆ帆先生がお引き受け下さった。この場をお借りして御礼申し上げたい。

### 序

まず 17 世紀の篤信家と彼らの設立した宗教結社について、パリを中心に概観する。1615 年にトレント公会議決議がフランス全国聖職者会議で承認されて以降、その指針に基づく新たな宗教結社がフランス国内で発展した。特に都市社会で、こうした宗教結社は多くの住民の宗教生活の紐帯の場として機能すると同時に、都市政治の倫理的性格を牽引した。パリでは、サン・ジェルマン城外区のような急速に宗教施設の建設が拡大する街区が登場する。とりわけイエズス会の活動は目覚しく、修練院付属聖堂（1631 年）や盛式誓願会員の家サン・ルイ教会（1641 年）といった施設の建設が相次ぎ、そこを舞台に貴顕信心会と呼ばれる篤信家の宗教結社が発展する。こうした状況を考察すると、パリにおけるカトリック（対抗）宗教改革の地盤形成を検討することは、近世フランスにおける都市空間と住民の宗教活動との関係や彼らの宗教的紐帯を具体的に考察することを可能にする。

次に、篤信家に関する考察を行なう。彼らの直接の起源は、宗教戦争期のカトリック同盟派にあり、社会階層としては高位聖職者、高等法院官僚、宮廷貴族、都市貴族、ならびに彼らの親族から構成された。また、彼らの信仰実践は聖母崇敬とキリスト中心主義によって特徴付けられる。ところで、近世フランス史の歴史記述において、篤信家と政治党派を意味する「篤信派」*Parti dévot* という二つの用語がしばしば混在しながら用いられる。この二つの用語の使用法はより詳細に検討する必要があるが、本報告では、篤信派ではなく篤信家という用語を採用する。ここでの篤信家の定義は、「聖人の世紀」と呼ばれる 17 世紀フランスで発展した内省を重視する信仰実践に共鳴した人々で、信徒と聖職者から構成される宗教結社に加入し、慈恵活動や布教活動を通じて自発的で多様なネットワークを

都市社会内部に構築する主体とする。

本報告では、パリの有力な宗教結社である聖体会 La Compagnie du Saint-Sacrement と貴顕信心会 la Congrégation des Messieurs の二つを取り上げる。両組織は共に 1630 年代前半から活動を開始し、パリのみならずフランス全土、さらには西ヨーロッパ世界の中で関連団体と密接な関係を築いていた。他方、信仰実践の側面においても、聖体会の聖体崇敬と貴顕信心会の聖母崇敬とは、篤信家の日常的宗教実践の代表的事例を提供してくれる。我々がこの二つの組織を分析することにより、上記のような共通点に関する理解を深めると同時に両者の相違点も見出すことになる。この点が明確になった事件が 1660 年代に起こった聖体会の解散である。この事件により聖体会という結社は消滅し、貴顕信心会は存続する。この両結社の組織的運命の対照性を検討することで、それ以後パリ篤信家のネットワークがどのように再編成されたかに解答することができよう。

本報告でこの二つの組織に注目したことは、研究史上からもその妥当性を確認することができる。同時代にあたる 17 世紀中盤から 19 世紀にかけて、特に聖体会を念頭に置きながら、「篤信」という言葉はフランスで反動的秘密結社を示す言葉であるという俗説が流布していた。20 世紀に入るとフランス国立図書館で『聖体会年代記』が発見され、この史料に依拠した研究が登場する。ラウル・アリエの『篤信家達の陰謀』（1902 年）は近代的歴史研究の手法に基づくこの分野における先駆的研究である。この中で、既に聖体会とイエズス会のマリア信心会の親和性は指摘されている。さらに、イエズス会側の史料を用いながら、より広域的にこの問題に取り組んだのがルイ・シャテリエである。彼は『篤信家達のヨーロッパ』（1987 年）で、パリにおいて貴顕信心会の構成員の多くが聖体会に入会している事実注目し、マリア信心会が聖体会を媒介にして形成した慈恵組織や宣教組織のネットワークを解明した。しかしながら、シャテリエの研究には三つの問題点がある。第一に、史料調査の偏りに起因する組織間相互の関係性（聖体会独自の組織網やマリア信心会の組織編成の特徴）に関する認識が不足していること、第二に、彼はルイ 13 世期を中心に篤信家の入会実態を調査しているが、ルイ 14 世期前半を含むより長期的な調査が必要であること、第三に、聖体会解散をめぐる問題にシャテリエは全く触れていないことである。そこで本報告では、この二つの宗教結社に関して、組織・理念・活動の実態（第一報告）と人的紐帯（第二報告）の二つの側面から分析を試みる。

[個別報告]

パリ篤信家の宗教結社の組織・理念・活動

—聖体会と貴顕信心会の会規の比較分析より

山本 妙子

本報告では、聖体会と貴顕信心会という二つの宗教結社の組織・理念・活動の一致と相違を分析することを通じて、当時の著名な篤信家たちがなぜこの二つの宗教結社に並行し

て加入していたのか、また同じ人材の苗床から成立した組織でありながら、なぜ聖体会は解散させられ、貴顕信心会は存続できたのかという二つの問題を解明することを目的とする。具体的には、定期的な朗読と遵守が規定されている両結社の会規の比較分析を行なう。史料としては『聖体会年代記』に含まれるパリ聖体会の「規約・実践・決議・役職者の職務」と、パリ盛式誓願会員の家の貴顕信心会の規則（1674年出版）およびマリア信心会の「共通規則」（1587年）を主に用いる。

まず両結社の設立の経緯と組織の比較分析からは、両組織ともカトリック（対抗）宗教改革の文脈において設立が促され、母会を中心とした広域的な組織的連関を持つ結社といえる。しかし、組織網の紐帯の強度と自律性には大きな相違が見出せる。ローマに母会を持つ貴顕信心会は、マリア信心会として教皇に認可され、国王・教会・修道会の次元公認された宗教結社であり、イエズス会の指導と学院を基盤とする緩やかな連合体として結びついていた。一方、聖体会は非公認の宗教結社であり、パリを中心に王国内において通信網を用いた緊密な組織網を作り上げていたといえる。次に、団体内部に視点を移し、構成と理念を検討すると、団体運営、役職者の役割や選出を含め管理体制は共通点が多く、ともに自身の完徳、他者への愛徳業（隣人愛）と教化を目的とした宗教結社といえる。そしてトレント公会議決議により保証され、対抗宗教改革の文脈でたかまる二つの崇敬、聖体崇敬（キリスト中心主義）と聖母崇敬はそれぞれ、団体の主要な目的に規定されるとともに、入会が制限された結社の閉鎖性や理念にも深く反映されていたと考えられる。しかし貴顕信心会が指導神父であるイエズス会と強い繋がりを持つのに対し、秘密主義を掲げる聖体会は特定の修道会の影響を避けつつも司教位階を尊重する傾向が見られた。第三に、両結社の共通の活動としては、集会、信心業の実践と相互扶助、慈恵活動と他者の教化が挙げられる。これらはトレント公会議以後、信仰のみを救済の拠り所とするプロテスタント教会に対し、善行と秘跡の実践が救済において不可欠と定義したカトリック教会において、当時の篤信家の重要な活動であった。ただし貴顕信心会は宗教的实践に専心していたのに対し、聖体会は特に慈恵活動と他者の教化や社会におけるモラルの維持など、後の一般救護院の設立に結実していくような社会事業に参与した集団であったといえる。

以上、会規の比較分析から、第一の問題である両結社に加入する意義を考えると、まず聖体会と貴顕信心会の崇敬は補完関係にあったと考察できる。当時、篤信家の信仰実践に影響を与えたベリユルがマリアへの献身をキリストが聖母の胎内でした服属と結びつけ、初期のオラトリオ会士にマリアへの献身の誓願を行ってからイエスへの献身の誓願を行うことを勧めたように、二つの崇敬を接合する信心形態が存在した。つまり忠実にキリストに倣うためには両結社に所属することが有益だったと考えられる。さらに団体編成が類似している二つの組織に支障なく加入できた篤信家たちは、そこで異なる篤信家の組織網に参入しつつ、内的な完徳と社会への働きかけを補い合うことができた。

第二の問題、すなわち両結社の命運を分けた組織的相違とは、聖体会の非公認の宗教結社という組織の性格および秘密主義の採用、司教位階の尊重や教会組織の擬似的構造の内

包、組織内部の通信網の発達と社会事業への積極姿勢であり、これらの諸要素は王権への反抗拠点の苗床、社会内部で成長する「見えない」存在として王権から危険視される所以となった。一方、公認団体であり宗教実践に専念する貴顕信心会は、会員の動向も他者から理解しやすい存在ゆえに存続した。そして聖体会廃止へと向かう状況の中で、二代目ルネ・ル・ヴォワイエ・ダルジャンソンを中心に作成された貴顕信心会の会規にみられるように、聖体会の精神と実践の一部は 18 世紀においても篤信家の活動として継続される。

[個別報告]

パリ篤信家の人的構成

坂野 正則

この報告では、聖体会と貴顕信心会への入会の動向と会員の社会的背景を探ることから、篤信家の人的ネットワークの具体的な様相を解明すること、ならびに 1660 年代に聖体会解散後にどのようなネットワークの再編成が生じたのかを検証することの二つが課題である。この課題を実行するために、上記の二宗教結社が本格的に活動を開始する 1630 年から聖体会解散とそれに伴う混乱が収束する 1670 年代までを対象とした史料調査を行なう。用いる史料について、秘密結社という組織の性格から聖体会に関する完全な入会者の一覧表を作成することは出来ないが、『聖体会年代記』と聖体会会員の通信文で言及されている会員を調査する。他方、貴顕信心会に関しては、入会式で読み上げる「聖母への奉献の誓願」式文への署名から、入会日と会員名に基づく入会者の一覧表を作成することができる。

史料上現れる会員名を分析すると、三つの特徴を見出すことが出来る。第一に、両方の組織で活動している人物が継続的に存在することから、この二つの宗教結社が会員の次元で恒常的な交流を継続していたことが分かる。また、聖体会解散後の 1660 年代後半から 70 年代前半にかけて、聖体会会員数名が貴顕信心会に入会している事例が見受けられるが、貴顕信心会の入会者に占める聖体会会員の割合はそれ以前と同じであり、シャテリエが強調したような貴顕信心会のもつ聖体会の代替活動拠点としての機能は、会員数の次元からは見られない。第二に、篤信家の社会的背景であるが、彼らは両方の結社で活動する人物と自分の婚姻や親族関係を通じてこれらの結社と関係を結ぶ人物の二つの類型から構成され、俗人会員の場合、訴願審査官・高等法院法曹（法服貴族層）といった社会階層であり、聖職者会員の場合、司教在任中や後に司教になる人物、国王付聴罪司祭といった比較的高位の聖職者であった。俗人・聖職者を問わず、彼らの多くがイエズス会学院で教育を受け、一部の者は学院内部の生徒信心会に入会し、学院卒業後、様々な分野で社会的地位を獲得し、その後貴顕信心会に入会し信仰実践を行った。同時に聖体会やその周辺で、海外宣教支援に代表されるカトリシズムの社会活動に協力する。第三の特徴は聖職者にみられるもので、パリのクレルモン学院の事例が代表的であるが、学院内部で聖職を志願する優秀な学生が、友人会（*Associatio Amicorum*）と呼ばれる実践的な聖職者養成を目的とした集会

に参加し、そこで当時最先端の霊性を学んだり司牧実践を経験しながら、国内外の宣教師として成長した。

聖体会と貴顕信心会の活動に参加した篤信家の人物誌研究の後で考察すべきなのは、聖体会解散後にその活動に直接関与した篤信家集団が社会的な存続を果たした方法と、彼らのネットワークや宗教生活の変容についてである。この問題を考える時、1663年前後がパリの篤信家にとって転機となることを考慮する必要がある。なぜなら、国王ルイ 14 世と財務総監コルベールは、親政開始直後に示した篤信家を完全に排除する姿勢から、王権の監督下で彼らの宗教活動を保護する姿勢へ転換するからである。この背景には、都市における救貧・慈恵活動の必要性の高まりやジャンセニズムの完全な排除といった社会問題によって、カトリック勢力の中で王権の宗教戦略に抵抗しない篤信家の結集を図る必要性があった。他方、かつて聖体会で中心的な活動を行っていた篤信家の側にも変化が見られる。解散前後から聖体会は複数の小教区を束ねる区(Canton)制度をパリに導入しようとし、同時期に貴顕信心会は小教区における会員の行動指針を規則の中で示すようになる。こうした動きは、篤信家が宗教的实践を小教区のような教区制度という王権の宗教的枠組みの上で再編成しようとしたことを示す。こうした篤信家側の動きは、聖体会が秘密結社という組織の性格により王権から「見えない」存在として危険視され、解散を命じられる結末となったことへの対応と解釈することができる。同様の王権への可視化の動きは、聖体会が開始した主要な事業であった一般救護院やパリ外国宣教会の活動にも見られる。こうした王権への配慮が、17 世紀後半における彼らの宗教実践の継続を可能にしたといえる。

## 結論

二つの個別報告をふまえた結論は、さしあたり以下のようなものとなろう。17 世紀パリの篤信家集団、とりわけ聖体会と貴顕信心会双方で活動した有力な社会階層の人々は、信仰実践の次元では聖母崇敬と聖体崇敬を両立させ、活動の次元においても聖体会と貴顕信心会での活動をうまく調和させた。具体的には、聖体会がカトリシズムの内包する理念である他者の救済を世俗社会で実現させることを希求し、社会的事業を組織するための拠点となったのに対し、貴顕信心会は内省的宗教実践の場であった。また彼らは、血縁や人脈を用いて宗教生活と社会生活を連結させ、その人的紐帯は世代を超えて継続した。ルイ 14 世の親政が開始すると、国王政府は聖体会に見られる宗教実践の必要性から誕生した秘密主義とそれに基づく組織構成を弾圧するが、この事態に対し篤信家集団は活動の可視化を進め、結社の中における宗教実践に専心し、当時の国家統治に適合するネットワークの再編成を行う。

最後に質疑応答においては、ネットワークの実態と機能への問い、またパリと地方間での団体規模や人的構成の差異や慈恵活動の共時性の有無が問題となった。一方、聖体崇敬と秘密主義の関係、中世からの連続性と近世の独自性など崇敬に関する問題も話題に上っ

たほか、フランス教会制度に関して、フランス王国という枠組みやフランス教会の階層性と宗教結社との関係や聖体会の活動や人脈に対する全国聖職者会議の影響など、今後の課題となる多くの議論と示唆をいただいた。

## 参考文献

### 一次史料

○未刊行史料

#### Archives Nationales

MM649-651 : *Jésuites serments à la Vierge.*

#### Bibliothèque Nationale de France

Manuscrit occidantaux, fr15779 : *Les Reigles & ordonnance ces faictes entre tous les confreres de la Congregation de la tres heurese Vierge Marie...,assemblée au college de Clermont de la société de Jésus, à Paris (1575).*

#### Bibliothèque Mazarine

Manuscrit 3335: *Homme illustres de la Congrégation de la Vierge, maison professe des Père de la Compagnie de Jésuite, à Paris.*

#### Archives Départementales de Gironde

C 3784: *Extrait des Registres de Parlement (Juillet, 1658).*

○刊行史料

1. Aquaviva, *Regole Comuni*, in: E. Mullan, *Sodalities of Our Lady studied in the documents*. New York: P. J. Kenedy, 1912, Source No. 5; 6; 9.
2. Crasset, J., S.J., *Des congrégations de Notre-Dame érigées dans les maisons des père de la Compagnie de Jésus*. Paris, 1694.
3. D'Argenson, René-Voyer, *Annales de la Compagnie du Saint-Sacrement*. Beauchet-Filleau (dir.), Marseille: Typographie & Lithographie Saint-Léon, 1900.
4. Delattre, P. (dir.), *Les établissements des jésuites en France depuis quatre siècles*, 5vols. Enghien: Institut supérieur de théologie, 1949-1955. (準史料)
5. *L'Office de la Sainte Vierge avec celui des morts , les sept pseume de la penitence, et autre Prières qu'on recite dans les Congregations de Notre-Dame, en latin, avec Regles de la Congrégation de Nostre-Dame établie dans la maison professe des jésuites*. Paris , 1674, pp.383-419.
6. Rebelliau, A., *La compagnie secrete du Saint-Sacrement: lettre du groupe parisien au groupe marseillais, 1639-1662*. Paris: Honoré Champion, 1908.

### 二次文献

Allier, R., *La cabale des dévots : 1627-1666*. Paris: Honoré Champion, 1902.

Augiste, A., *Les Société secrètes catholiques du XVIIe siècle et H. M.Boudon Grand Arichidiacre d'Evreux*. Paris: Auguste Picard, 1913.

Bély, L. (dir.), *Dictionnaire de l'Ancien Régime*. Paris: Presses Universitaires de France, 1996.

- Bergin, J., *Crown, church and episcopate under Louis XIV*. New Haven & London: Yale University Press, 2004.
- Bergin, J., *The making of the french episcopate 1589-1661*. New Haven & London: Yale University Press, 1996.
- Blond, L., *La maison professe des jésuites de la rue Saint-Antoine à Paris: 1580-1762*. Paris: Éditions Franciscaines, 1956.
- Cathieu, F. de., « Le développement du Faubourg Saint-Germain du XVIe au XVIIIe siècle », *Bulletin de la Société de l' Histoire de Paris et de l' Île-de-France*, vol.85, 1958, pp.21-40.
- Certeau, M. de, « Politique et mystique: René d'Argenson (1596-1651) », *Revue d'ascétique et de mystique* 39, 1963, pp. 45-82.
- Châtellier, L., *L'Europe des dévots*. Paris: Flammarion, 1987.
- Chill, E. S., *The Company of the Holy Sacrament (1630-1666)*. Ph.D. of Columbia University, 1960.
- Dainville, F., *L'éducation des jésuites: XVIe-XVIIIe siècles*. Paris: Éditions de Minuit, 1978.
- Depauw, J., *Spiritualité et pauvreté à Paris au XVIIe siècle*. Paris: La Boutique de l'Histoire, 1999.
- Desset, D., *Fouquet*. Paris: Fayard, 1987.
- Dictionnaire du Grand Siècle*. Paris: Fayard, 1990.
- Féron, A., *Discours de réception de M.A. Féron. Introduction à l'étude des sociétés secrètes catholiques dans le diocèse de Rouen au XVIIe et XVIIIe siècles*, Rouen, 1927.
- Frostin, C., *Les Pontchartrain ministres de Louis XIV*. Rennes: Presses universitaires de Rennes, 2006.
- Cavallera, F., « Aux origines de la société des Missions Étrangères, l'Aa de Paris », *Bulletin de Littérature Eccésiastique de Toulouse*, 1933, pp. 173-186; 206-226, 1934, pp.17-31; 71-94.
- Golden, R. M., *The Godly Rebellion: Parisian curés and the religious Fronde 1652-62*. Chapel Hill: The University of North Carolina Press, 1981.
- Gutton. J.-P., *Dévots et société au XVIIe siècle : construire le ciel sur la terre*. Paris: Belin, 2004.
- Halpenny, Frances G. (ed.), *Dictionary of canadian biography TomeII*, Toronto: University of Totonto Press, 1969.
- Lottin, A., « Les grandes inflexions de la dévotion mariale aux Temps modernes (XVIe-XVIIIe siècle) », in: Lottin, A.(ed.), *La dévotion mariale de l'an mil à nos jours*. Arras: Artois Presses Université, 2005, pp. 30-34..



Marin, C., *Archives des Missions étrangères de Paris études et documents TomeIX: Le role des missionnaires français en Cochinchine aux XVIIe et XVIIIe siècles*. Paris: Eglises d'Asie, 1999.

Martin, C., *Les Compagnies de la Propagation de la Foi (1632-1685) : Paris, Grenoble, Aix, Lyon, Montpellier : Etude d'un reseau d'associations fonde en France au temps de Louis XIII pour lutter contre l'hérésie des origines à la Revocation de l'Édit de Nantes*. Geneve: Droz, 2000.

Moussay/Appavou, *Répertoire des membres de la Société des Missions Etrangères 1659-2004*. Paris: Archives des Missions Etrangères, 2004.

Mullan, E., *History of the Prima Primaria Sodality of the Annunciation and Sts.Peter and Paul: from the Archives*. St. Louis: The Queen's Work Press, 1917.

O'Malley, J. W., *The first Jesuits*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1993.

Péronnet, M., « Les établissements des jésuites dans le royaume de France à l'époque moderne. », in: Demerson, G. et G. (dir.), *Les Jésuites parmi les hommes aux XVIe et XVIIe siècles*. Clermo-Ferrand: Association des publications de la Faculte des lettres et sciences humaines de Clermont-Ferrand, 1987, pp.459-471.

Plongeron, B. (dir.) *Le diocèse de Paris tome I : des origines à la Révolution*. Paris : Beauchesne, 1987.

Ravel, A., « Construire un objet de recherche en histoire: le parti dévot au XVIIIe siècle », *Genèses* 55 (2004), pp. 107-125.

Sy, *Archives des Missions étrangères de Paris étude et documents Tome X: La société des missions étrangères:La fondation du Séminaire (1663-1700)*. Paris: Eglises d'Asie, 2000.

Tallon, A., *La Compagnie du Saint-Sacrement, 1629-1667 : spiritualité et société*, Paris: Les Éditions du Cerf, 1990.

Taveneaux, R., *Le catholicisme dans la France classique: 1610-1715 Tome II*. Paris: S.E.D.E.S., 1994.

Venard, M., « Christianiser les ouvriers, en France au XVIIe Siècle », in: *Pastorale et predication en France, Transmettre la foi: XVIe-XXe siècles t.1*. Paris: C.T.H.S., 1984, pp. 19-30.

Vergé-Franceschi, M., *Colbert*. Paris: Payot et Rivages, 2003.

Villaret, E., *Les congrégations mariales*. Paris: Beauchesne, 1947.

坂野正則「17世紀ヌヴェル・フランスにおける植民地建設とカトリシズム」『史学雑誌』113-8、2004年、34-67頁。

坂野正則・山本妙子「17世紀パリにおける篤信家ネットワークの編成——聖体会と貴顕信

心会を中心に」『クリオ』21号、2007年、67-84頁。

聖イグナチオ・ロヨラ著、中井允訳『イエズス会会憲』イエズス会日本管区、1993年。

高澤紀恵「近世パリ社会と篤信派——聖体会をめぐる予備的ノート」『ヨーロッパ近世・近代の政治社会』（学術振興会科学研究費補助金、基盤研究A、研究成果報告書）、2006年、59-70頁。

高澤紀恵「近隣関係・都市・王権——16-18世紀パリ」近藤和彦編『岩波講座世界歴史 16 主権国家と啓蒙』岩波書店、1999年、171-193頁。

バンガート, W.著、上智大学中世思想研究所監修『イエズス会の歴史』原書房、2004年。

槇原茂「信徒のアソシアシオン——コンフレリー」福井憲彦編、綾部恒雄監修『結社の世界史 3 アソシアシオンで読み解くフランス史』山川出版社、2006年、30-43頁。